



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

平成 22 年 6 月 2 日(水)  
日吉神社の嫁見祭り 編

6月2日、3日に日吉神社の例祭「中の申祭」が行われました。このお祭りは、ご神体を奉安した日が天文 2(1533)年旧暦の4月2目の申の日であったことが由来となっています。古くから「中の申」のお祭りには1年間に結婚した女性が正装をし、お参りする習慣がありました。現在では、宵祭は「嫁見まつり」とよばれ艶やかな花嫁衣装を着た女性達が良縁に感謝し、また良縁を願って神社へお参りします。現在は能代の観光行事として街に賑わいをもたらし、多くの方々に喜ばれています。

上町すみれ会、常盤ときめき隊もこの行事に4年前から参加し、屋台販売をして来ました。今年は高速道路交流推進財団からの支援を受けたことでのしろ白神ネットワークとして参加、新緑の境内にシーニックデッキを設置し、大変好評を得ました。大きく立派なポスターの協力団体に「のしろ白神ネットワーク」という文字を見た時は感無量でした。

今回はデッキや杉ベンチを設置した景観づくりだけでなく「ぐるーぷ・あばんしえ」との協力で、境内での奉納演奏も開催することができました。これは、日吉神社の中の申祭としても初めての試みで、坂本優子宮司さんのご好意で実現しました。演奏者は熊野を拠点として世界的に音楽活動し、日本のヒーリングミュージックの第一人者である矢吹紫帆さん(天女座主宰)とご主人の矢中鷹光さんにお越しいただき、シンセサイザーとギター演奏で美しい音色を奏でいただきました。美しい花嫁さんも一般客も杉ベンチでうっとり…。境内の清々しい空気の中で最高のコンサートとなりました。

境内下にある「木都の父」といわれる井坂直幹の記念館もPRしました。細い小道にスギ灯りを設置、日が暮れるにつれ美しい炎の小道ができあがり、普段はあまり来場者のいない記念館が人で溢れ、同館の案内人をつとめる常盤ときめき隊理事長の小林甚一さんはてんてこまいで、パンフレットも足りない状態になったとのこと。この日の来場者は過去最高の90人以上となり、PR効果にビックリでした！

忘れてはいけないすみれ会の屋台の出し物は、おでんとマドレーヌ。ウッドデッキでゆっくりお神酒を召し上がる方も後を絶たず、これも花丸の大成功！ときめき隊のオーニソガラムは毎年好評で、この販売を待っている方も多く、すみれ会の相澤さんが種から栽培したマリーゴールドも大評判で即完売。コンサート観賞をしながらの楽しいイベントとなりました。



今年もお嫁さんをひと目見ようと、多くの来場者がありました。



初登場のデッキもお馴染みとなったスギ縁台も来場者に好評でした。能代河川国道事務所の方々は会場準備のほか、活動紹介のポスターを展示して下さいました。



雰囲気が良いいつも人気の屋台。おでんは完売しました。



スギ灯りを並べた記念館への動線は効果満点でした。



## こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

わたしたちのイベントは機材等が多く、準備に時間がかかりますが、今回も黒松友の会の皆さんの応援もあり、何とかできました。150 個のスギ灯りを並べたり、点火したり、回収したりは人手がなければできません。すみれ会もときめき隊も自分の仕事で精いっぱい！それを補い、ニコニコしながら手伝って下さったのが黒松友の会の方々でした。旧二小のライトアップの際も、ご自分たちの活動以外のことをネットワークのためにご尽力いただきましたこと、心より感謝申し上げます。8月5日のまち灯りには、この団結力をフルに活かして大成功を収めたいものです。

それにしても、嫁見まつりでこんなに晴天だったのは初めて！！爽やかな新緑の中で最高の一日でした。

文：能登 祐子

121 年前に水戸から来能し、「木都の父」としていま多くの能代市民の心の奥に行き続けている。井坂直幹<sup>なおもと</sup>さん。

原始形態のままにあった木材産業の近代化の新しい波を導入し、「秋田木材株式会社」を名実ともに東洋一の規模に育て上げた。在来の地元業界を刺激してその改善発展を招来して「木都能代」の基盤を確立するに至った。

先生の高潔謹厳な人格と豊かな創造性は、人々を深く心服させるものがある。製材機械化、電気事業着手、労働条件の向上、奨学金制度の実施、植林の薦めなど、先生こそ行徳両全の郷土の先覚者である。

この日の見学者はいままででない 90 名と、県外、県内、市内の方々に大入りでした。—臨時開館 ズバリ— 灯りが偉人を呼んだ嫁見祭りでした。

日吉神社の隣に位置してある。来館して先生と直接話しをしてみませんか。わたしたちのあるべき姿を教えてくださいます。

文：小林 甚一

海に見える音楽ホールを造りたいという夢を叶え、熊野の地に「天女座」を作られた、日本のヒーリングミュージックの第一人者といわれるシンセサイザー奏者・矢吹紫帆さんを、日吉神社の嫁見まつりにお招きできたらどんなにいいだろう！というぐる一ふあばんしえの発案に対し、日吉神社の宮司さんの承諾と、のしろ白神ネットワークよりスポンサーをしていただけることになり、急遽実現することになりました。



黒松友の会の方々がスギ灯りを担当(上)。工藤会長お手製の新作も登場しました(左)。シーニックデッキの雰囲気誰よりも早く味わっていただきました(下)。



ネットワークのロゴ入り看板を市役所ではつくって下さいました。矢印とスギ灯りをたどっていくと、かつての蔵を活用した井坂記念館にたどりつきます。



井坂家の屋敷地であった記念館の周りは新緑が生い茂る気持ちの良い公園で、能代の穴場のひとつです。





## こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

それは、本当に不思議なくらいスムーズに、すごいスピードで決まったのです。短い準備期間でしたが、当日は例年になくお天気にも恵まれ、境内に矢吹さんのシンセサイザーが奏でる美しい音楽が鳴り響き、お嫁さんたちやこの日おいでくださった人々はもちろん、境内の木々も、そこに住む小さな動物たちさえも、きっとこの宵を喜んでくれたのではないかと思うのです。

これは嫁見祭りが始まって以来の試みでしたので、宮司さんには色々な方々と調整に当たられ、この企画実現にご尽力くださったことに、心から感謝の思いです。また、市役所の担当者の方々には、のしろ白神ネットワークや観光協会、わたしたち参加団体との相互理解と調整役を引き受けてご活動下さったことにも本当に感謝でした。

わたしたちにとっても初めての経験で、演奏場所や準備等に改善すべきところが多々ありましたが、矢吹さんや矢中さんの演奏は素晴らしく、沢山の方々から賞賛と感謝のお言葉をいただきました。中でも、矢吹さんの得意とされる御題を頂いての即興演奏で、「能代七夕」のお題を提供された元音楽の先生は、「いやー、本当に感動しました！聞いていて、80年くらい前のまだ電線の無かったころの、あの大きな能代七夕の情景が目の前に浮かんできました。あの七夕のメロディーに太鼓の音まで聞こえてきて・・・素晴らしかった！こんなに素晴らしい演奏を、もっとみなさんがゆっくりと聞いていただけたら良かったな～と思い、それが残念でした。でも、あれが「本当の音楽」なのです。また、能代に来て演奏して欲しいと思います。」と感想を下さいました。

お嫁さんたちが柳町に移動された後ではありますが、静かな境内で嫁見まつりの宵を神様へ捧げる演奏とともに、ゆっくりと浸って頂きたいとの思いから、お神酒タイムとして矢吹さんたちのコンサートを楽しみました。残って下さった方々は少なく、とても残念でしたが、中にはくいいるように演奏を聞いている方もおられ、静かな夜の境内に響く美しい演奏を思い思いに楽しんでおられるようでした。

嫁見まつりというお祭りの中で演奏をじっくりと聞いていただくことの難しさも感じましたが、次回の課題として考えて行きたいと思います。けれど、矢吹さんの奉納演奏によって、今回の嫁見まつりをこれまで以上にとっておきのものに盛り上げて頂けたのではないかと思うのです。

日吉神社宮司さま、白神ネットワークさま、そして、関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

文：ぐる一ぶ あばんしえ 平川 恵美子



お祭りの半月前には宮司さん・あばんしえ・ネットワークの3者で現地打ち合わせを行いました。



ネットワークにとっても初めてのコンサートの試みは大成功でした。



あばんしえはマップや飲み物を置いてPRしました。



神社入り口では鶴形そばさんが出店していました。